

統一商事法典がもたらしたものの

野 口 明 宏

はじめに

商法は複雑な法領域といわれる。その原因は、商法が助成しながら規制しようとする、市場経済自体がきわめて複雑で、その上、基本的な経済・社会問題に関する人々の見解が一致しないことにあるといえよう。望ましい商事法のもとで、商事事件に妥当な判決を下すことは、現在の状況を十分に理解し、結論を導く意思が明確であっても、かなり困難をとまなう。本稿においては、商法の発展を概観する中で、これまで考察してきた米国統一商事法典が成立した意義を再び考察することにする。とくに統一商事法典の影響を受け、それを制定する権限のある企業に、法典が売り渡された事情を明らかにする。また統一商事法典の成立をめぐる政治的状況にも、あえて言及することにしよう。これらは、商法の特質だけでなく、二十世紀の法と商業の価値に関する理解をもたらすと考えるからである。

1. 統一商事法典以前の商法

統一商事法典以前の法は、過去の商業実務にもとづく時代遅れの商法であった。統一商事法典の起草開始時の商法の状態は、混迷であった。つまり、細部が異なり、奇妙な複雑さを備え、過去の商業実務にもとづく、無秩序で時代遅れの商法であった。しかし現代人は、商法の混乱状態を終息させようとする熱意を有していた。古い法の世界が重視したのは、機能でなく、装飾であった¹⁾。そのため、古い法を機能させ、合理化し、新しい観念に置き換える必要があった。過去の商業実務にもとづき、時代遅れの状態にあった統一商事法典以前の法に対して、旧時代の売買を排除するた

めの戦いが始まった²⁾。

売買法は、典型的な馬の売買で行われた対面取引の周辺で発達した。ところが、現代人は大量生産時代に適した法を必要としていた。とくに売買法は、絶望的に時代遅れである点で、異論がなかった。馬売買法と干し草売買法は、大量生産と国内分配の複雑な取引を懸念しながらもそれを黙認した³⁾。

古い法は現実にもとづかないだけでなく、抽象的であった。古い法はあまりにも複雑であった。統一商事法典第二編売買は法典の中心をなし、古い抽象的法に代わるものであった。古い法は、誰も証拠によって証明できず、具体的人の言葉や行為の抽象的証拠を代用するために、無形のものに依存していた⁴⁾。

2. 法現実主義による法典の起草

新しい商法に求められたことは、現実にもとづく法の作成である。法現実主義の考え方はつぎのように要約可能である。法現実主義は一般に、(1) 法は当然役に立ち、もしくは役に立つべきであり、法的ルールは自ら意識的に政策を実行すべきであるとした。現実主義の研究対象は、現代を規制する法体系でなく、主に裁判所であった。(2) ルールについて、現実主義は懐疑論を主張し、明確なルールは裁判所を拘束しえず、裁判官の判断をあまり制限できないと考えた。その結果、現実主義者は法と政策を分離しえないとした。(3) 現実主義者は反概念的傾向にあり、権利や財産のような、幅広い分析的区別を拒絶した。なぜなら、ルールを選択する際に、何が問題であるのかを不明確にするからである。(4) しかし現実主義は、ある場面で実際に追求すべき政策については、あいまいであった。現実主義者は政策を実行するより、その分析を要求する傾向があり、彼らの多くは、道徳的に相対主義者であった⁵⁾。

つまり、現実主義者の環境は、経済的困窮に属している。現実主義者の

傾向は、冷めた見方である。その理想とする人物像は、割り切って行動する人である。彼らの学問的手段は、行動科学である。現実主義者の政治哲学は、実験主義と実用主義である⁶⁾。

カール・ルウェリンは一般に、法現実主義者と理解される。統一商事法典は、アメリカ法における法現実主義運動の精華、カール・ルウェリンは統一商事法典の首席報告者を務め、同法典の主要な創設者であった⁷⁾。

ルウェリンは1920年代からその論文で、主知主義の退化に反対する考えに向けた行動の必要性を説いた。この論文は未発表であり、現在の主知主義は崩壊の途上にあり、いずれ崩壊という目標に到達するであろうと説いた。主知主義は、行動を支配する考え方であり、経験という事実に執着して、整然と将来を予測する。この考え方は、絶えず確認しうるので、有益である。主知主義の考えは、自己と他人により多くの結果と、多くの喜びをもたらす⁸⁾。

商業の現実にもとづいた統一商事法典は、機能する法になることを期待された。統一商事法典は人々の必要性を満たし、取引の実務に根ざさねばならない。法典を商業実務にもとづかせることは、ルウェリンにとって最も重要で、くり返し唱え続けたテーマであった。ルウェリンは、商法の対策として、妥当な商業実務の採用を考えた。彼は取引実務を民族文化として賞賛して、友人が舗道で議論するのを聞く時、私は熱烈なファンの存在に巻き込まれ、信頼に関する慣習的行為を聞き、私は職人の技術と名声に屈服すると説いた。商法は市場の妥当な実務に従うべきものと唱えた⁹⁾。

法は簡潔、明瞭で、商人が使用可能であることを必要とする。商人社会の立法化について、ルウェリンはフランク・キャブラ風と評される。1941年のルウェリンは、ドイツ法哲学者の法史の考えと同様、1940から50年代に活躍した映画監督、フランク・キャブラによる社会の見方の影響を受けたからである。ルウェリンの理論構成の背後には、小都市に住む市民の相互協力と、正常な社会を渴望する、不況時代が想定された。社会の力は、

有力者と争う、普通の市民を支持した。これは頑強な反形式主義を前提とする、商人陪審のルールは、市民のルールになるであろう。商業上の合理性は、アメリカ人の合理性と良識の一部になるであろう¹⁰⁾。

法典とは、洗練された制定法という¹¹⁾。統一商事法典は適切に実行可能な基準を定め、商業上の公平性の体制を構築する。これまで条文の定めによって認められた多数の保護は、現在統一商事法典の条項が存在しなくても利用しうる。同法典の主な特質は、買主・売主双方の権利と利益の調整のバランスをとる、権利・義務の内容を明らかにする。必要な法は、その理由、原理、そして要素の組合せ方法を明確かつ確実にするであろう。その法は、素人が使用できる術語を用いるであろう¹²⁾。それはまた親切で、役に立つ法であろう。

統一商事法典の起草時期は、およそ1939年から1954年に及ぶ。その最初の数年間は、新しい商法提案の様相を呈した。当時の商法はばらつきがあり、不統一で、当時の企業の状態に遅れをとっていた¹³⁾。それゆえ、法の文言を収集して統一し、簡素化した上で、一定の現代の傾向に適合させなければならなかった。

新しい商事法典は公正で、均衡がとれ、個々の取引に合致し、一律の取引を促進して、条項が適用される人々に影響した¹⁴⁾。同法典は、法律家に法を明確化し、また容易に分かるように、単純な文言を用いようとする。また、商人が弁護士を必要とする時に理解でき、弁護士の助言が分かるように、商人にとって法を明確化しようとした¹⁵⁾。統一商事法典は、助言の確実で明確な基礎を提供するであろう。

法典の別の側面は、現在の紛争解決のための基準を明示することである。法典は、紛争の非公式な調整手段を提供した。実際に、訴訟は衰退していくものである。商業上の合理性の基準を定めることは、商人陪審のためになり、争いを解決することは、訴訟の代わりとなり、商人陪審員を支援するであろう。

法典を戦争時の状態に結びつける試みも存在した。戦争が一度計画された時、以前の製造方法が最善であっても、奇妙にも無目的で無駄の多いことが際立つので、法典もそれ自体真剣な作品分析の洗礼を受けるであろう¹⁶⁾。

3. 統一商事法典の売りこみ

起草者は1940年代後半から、弁護士組織と統一商事法典の影響を受ける企業に、その売りこみを始めた。多くの同じ議論が、新しい議論に加えて行われた。1947年の新商事法典に関するルウェリンのメモにおいては、企業法が変化した状態までも捉えねばならず、新法は事業計画を容易にする¹⁷⁾と何度も繰り返されている。その際、商事法典は商事制定法として、四つの要素を有することが強調された。つまり明白であり、現代の問題に関係し、行為の法的結果にもとづいており、そして全体として調和していることである。当時の商法は、大量生産の点でどれほど時代遅れの商業にもとづいているかを指摘されていた¹⁸⁾。統一商事法典第九編のある起草者は、施行されている大抵の統一法が二十世紀の変わり目に起草され、もしくはイギリス法から複製されたと指摘した¹⁹⁾。

法典はそれによって影響を受ける者すべてに関係する、厳格で綿密な起草過程の産物という、新しいテーマが出現した。統一商事法典は、起草における民主主義の実験といわれた²⁰⁾。起草過程の徹底した説明は、十分な議論のみによって獲得しうるのであろう。約五十人の起草要員は、あらゆる商業関係者およそ数十名と協議した。この協議は、最初の草案作成以前に始まり、最終草案まで継続した。起草と書き直し期間経過の後、草案がアメリカ法律協会に提出された。

文字どおり、何百もの問題が議論され、多数決で決定された。それは一度でなく、何回も行われた。民主的手続は、これらの会議で始まったものといえよう。商事法典の試案は疲弊してやつれた状態で、起草者、相談役、

そして協議会に再委託された²¹⁾。

書き直された草案は、つぎに統一州法会議に送られた。統一法の条項を一行ごとに審議し、カンマに至るまで再検討するのは、統一州法会議の誇りと伝統である。その伝統は維持された。八百名以上の法律家が内容と形式を吟味し、十二以上の草案に労力を費やしたが、その資料は不確かであった。これは、商事法典の底辺をさらに拡大する時でもあった。さまざまな分野の専門家、つまり特別の利害関係を代表する弁護士が、意見を求められた。

一度は語られても、決してくり返されない事実が存在する。それは、統一商事法典の第九編が金融機関に分け前を与えたことである。金融機関は、効率的な安全システムを獲得するが、その見返りに債務者の保護を負担した。これについて、金融機関の選択は賢明であったと評されている²²⁾。

4. 法典の採択

統一商事法典採択の分け前を得られなかったのは、投資家である。法典はしばしば敵対的に受容されたものの、完全には拒絶されなかった²³⁾。大抵の弁護士組織と影響を受ける企業は、遅延的姿勢をとった。たとえ法典が文言どおりに受容されなくても、それは形にはめるものであろう。

統一商事法典に対する反応は、法典を金融業者への身売りとみなすものから、法典を共産主義者の影響を受けたとする、つまり左から右まで存在した。たとえば、提案された統一商事法典を採択すべきでないという立場から、同法典は銀行業者の圧力団体へ売却され、第四編は一つのひどい部類の立法と酷評された²⁴⁾。また、商法に関わりを持つ大抵の弁護士は、法典を左翼にはほど遠いと考えた。金融機関の弁護士は、担保付取引条項の多くを実行不可能で役に立たないと批判した²⁵⁾。

起草者の間で、法典は改正法といえるか否かについて見解が一致しなかった。法典は特別の利害関係を満たすために改正されたという批判に対し

て、ある起草者はつぎのように応えた。すなわち、特別の利害関係とその取引方法を規制するために、起草者は法律を作成していると思われる。それゆえ、この計画に参加する誰もが、いかなる言葉の意味でも、本法典を改正法案とは考えていないとした²⁶⁾。

統一商事法典は多くの注釈者から、既存の商法改正、温情主義、左翼的、もしくは社会立法などの理由で批判された²⁷⁾。起草者は1950年代始めにかけてのマッカーシー時代に、承認を得ようとしていた。一部の銀行業者も、統一商事法典を共産主義者の陰謀と考えていた²⁸⁾。

統一商事法典に対するさめた反応のため、それはペンシルベニア以外のどの州からも法律化されなかった。この場合、鍵になる州はニューヨークであり、法典は長い検討のため、ニューヨーク法律改正委員会（NYLRC）に付託された。ここで、法律改正委員会による法典検討の際に生じた、二つの事態に言及しておこう。それらの事態は、起草者と委員会で生じた。

カール・ルウェリンは、法律改正委員会に対して法案を支持し、その成立を強く主張した。彼の最初の根拠は、妻のメンシコフとほぼ同じであった。法典は長期にわたり厳密な、徹底的起草手順を踏んだ。起草機関は、起草を推進のための確実な資料を有していた²⁹⁾。起草部門では、法典の構築方法のため、法典のイメージは複雑で、優秀な技術者の作成した、技術的に進歩した道具であった。法典を道具として活用する人々は、その支持者となった。ルウェリンはこれについて比喩的に、疑念は夏の朝の霞のように消滅すると述べた³⁰⁾。

他方で既存の法は、専門家のみに理解でき、解釈が困難であるのに、程よい料金による法律相談は、アメリカの企業や金融に役立っていた。競争は他に、どのようにして公正かつ自由を実現するのか。ところが、既存の法は信じられないほど、ほとんど役に立たぬ複雑なものであった³¹⁾。誠実な批評家が法典について、どれほどまじめに、また知的人々の想定した解釈であると非難する場合は、法典が大幅に改善する、既存の商法のひどい

状態を明らかにする必要があった。

このように、現代の統一商事法典は、簡潔、明瞭、活用が容易で、実務に効率性をもたらした。1920年代に広告文化を非難したルウェリンは、新しい家庭用品、つまり1950年代の主婦が楽しく使用した、洗剤、モップを販売するために、50年代の企業が用いた宣伝文句を、その時使用した³²⁾。

ニューヨーク法律改正委員会の報告書は、それ自体法律の詳しい説明で埋められた。その報告書は、統一商事法典の条項を微視的に分析した複数の巻を包含する。法典は、現在考えられること、つまり政治的目標と分離した、技術的法研究の対象とされた。

法律制定後、起草者は、起草過程の政治的論争を忘れて、立派に遂行された任務の栄光に浴しつつ、その過程を楽観的に回顧している。たとえばある起草者は、1982年の統一商事法典の起源と発展、法典を考える起草者のシンポジウムで、興味深い集団の観点から意見を述べた³³⁾。他の起草者は、法律を書き直す際、彼らが言葉の確実な使用能力を発展させたと、起草過程を回顧した³⁴⁾。過去にあった意見の対立は、すべて忘却されたかのようであった。

統一商事法典に関する今日の法律論文のほとんどが、狭い範囲の論点の技術的分析を行う中で、一部重要な状態に目を向けるものがある。統一商事法典の経済的分析の実例は、第九編の政治問題である。これは、その法律がいかにして存在するに至ったかを説明するために、経済モデルを用いている³⁵⁾。

そして、全く異なる方法によって、カール・ルウェリンの特異な性格に目を向けた研究がある。この論考は、ルウェリンの精神的疾患、個人的事情に焦点を合わせる³⁶⁾。そこでは、ルウェリンが、小説家のアーネスト・ヘミングウェイやスコット・フィッツジェラルドのような、見事に独創的で、非常に迷惑をかける、戦後の大家と比較される。統一商事法典は、苦悩する才能が生みだした開拓者的作品といえよう。

5. 商事法典制定の意義

統一商事法典の成立から何を学びうるであろうか。統一商事法典の計画と起草過程は、初期の法典を起草した団体が、かなり小規模で、専門的起草委員会であった、過去の主要な法典の制定と著しく異なっていた。過去の起草委員会は、すべて行政官庁の専門家で構成された。統一商事法典の計画は、二十世紀後半の五十ほどの法域から成る合衆国にふさわしく、かなり大規模であった。

現代の民主的機関が、包括的で完全、かつ整合的な私法法典を成立させるのは、ユスティニアヌス皇帝やナポレオン執政政府のような独裁的機関の時代より、かなり困難なことは明らかである。ところが、米国の法案の通過は大抵、民主的法典の場合でも、ほとんど変更なしに行われている。それは、法典が大部分を専門の議員でない、立法技術の専門家が起草しているからである。

統一法の制定過程において、五十余の法域が可決するので、統一州法委員全国会議に重い負担がかかっている。アメリカ法律協会が統一法の適切な制定のために営まれ、統一州法委員全国会議が適切な制定と、その法律化のために運営されるならば、歴史は異なる負担が性質の異なる結果になりうることを示唆するであろう。

専門家の集団が得意とするのは、現代の法律制定のための活動より、法律の起草である。私法上の問題を考える場合、立法府の議員が政治的妥協に重点を置くのに対して、専門家は主として、自己の専門知識の問題を重視するからである。これは、私法領域の歴史が裏づけている。しかし、より広範囲の要求がある現代の政治的現実、その意見のバランスをとることが、私法の立法にも影響するようである。

合衆国の経済的利益区分は、それを真の区分とするのであれば、従来の商人と消費者の利益の区分から、大企業、中小企業、そして消費者・従業員

員の三者間となりうる。これは、統一商事法典第二編売買が直面する問題である。第二編はある程度、さまざまな利益の結果を定めており、実際に承認されている。この問題は、意見を寄せ集めているにすぎず、複雑で混乱している。異なる利益の考慮を保証する現代の考え方は、必然的に異なる力学、あるいは危険な過程に通じる³⁷⁾。これは、その時の優勢な利益が支配的である間に、存続するにすぎない。

ポストモダンといわれる現代においては、すべてが政治に関連づけられる。この見解への賛否はともかく、政治はますます、統一法の制定過程を特色づけるであろう。専門的に意図された結果と、典型的な立法上の結果との差異は、縮まるといわれる³⁸⁾。これは統一法運動自体を威嚇して、連邦議会の決定を左右し、その場合に関係者のより大きい努力が必要になる。統一法の改正過程は、徐々に変化してきたが、最初の統一商事法典における論争の種は、その後も成長を続けた。統一州法委員全国会議とアメリカ法律協会のリーダーは、大きい負担に直面しながら、かなりの成功を収めてきた。改正過程の将来は、結果の良否が、広範囲にわたる同意と、それにとまなう法律制定の正当化を保証するような過程に依存するであろう。これは、統一州法委員全国会議の適切な理解と、その法律制定にかかっている。

むすび

起草者の巧みな表現は、統一商事法典を米国商取引の基準とすることに成功した。その表現は、契約法と売買法の古い理論を巧妙に排除した。同法典は国内法として制定され、多くの国際商事契約原則（UNIDROIT）を作りだし、統一性を獲得した³⁹⁾。統一商事法典の担保付取引に関する第九編は、個人財産保護の利益を先行法よりかなり容易に提供する⁴⁰⁾。第九編は一般に商法を簡明化したといわれている。

カール・ルウェリンは、法現実主義者と理解するのが素直といわれる。

統一商事法典は、アメリカ法における法現実主義者運動の精華であり、ルウェリンは統一商事法典の首席報告者として、その主要な創設者であることは前述した。ルウェリンの商事法典起草事業全体への貢献にもかかわらず、一般によく知られているのは、おそらく彼が商品の売買に適用される、第二編を起草したことであろう⁴¹⁾。ルウェリンによる生ける法の追求は、商事法典第二編でなされた。

ルウェリンはあいにく、生ける法を追求する際に、法現実主義の重要な要素との食い違いに取り組み、これが意図しない重大な結果を生んだ。具体的に商人集団の自治というルウェリンの考え方、および平等な取引法廷の提供という、意図した結果を実現できなかったからである。ルウェリンの考え方は、理解されなかったことになる。官僚的狀況で業務に従事する専門家の最終的結果は、説得力があるというのが伝統的理解である。このような理解は、法典の大抵の歴史が技術的で、詳細かつ分析的であることを意味する。こうして、技術的法律の専門知識の結果は法学上確立していた。

注

- 1) See Llewellyn, *Some Realism about Realism-Responding to Dean Pound*, 44 HARV. L. REV. 1222, 1222 (1931).
- 2) See Llewellyn, *The First Struggle to Unhorse Sales*, 52 HARV. L. REV. 873, 873 (1939).
- 3) Gilmore, *On the Difficulties of Codifying Commercial Law*, 57 YALE L. J. 1341, 1341 (1948).
- 4) See U.C.C. § 2-101 Com. (2005).
- 5) See Schwartz, *Karl Llewellyn and the Origins of Contract Theory* in THE JURISPRUDENCE OF CORPORATE AND COMMERCIAL LAW 124 (J. KROUSE & S. WALT EDS. 1999).
- 6) See Kamp, *Between-the-Wars Social Thought: Karl Llewellyn, Legal Realism, and the Uniform Commercial Code in Context*, 59 ALB. L. REV. 325, 330 (1995).

- 7) See Maggs, *Karl Llewellyn's Fading Imprint on the Jurisprudence of the Uniform Commercial Code*, 71 U. COL. L. REV. 541, 541 (2000).
- 8) カール・ルウェリンの未発表原稿については, Kamp, *The Power of Stories: Intersections of Law, Literature, and Culture: Mercantile Stories & Postcolonial Stories of The Code*, 12 TEX. WESLEYAN L. REV. 377, 379-85 (2005) による。
- 9) 1940年の統一州法委員全国会議の話し合いにおいて、委員とルウェリンとの間につきのようなやりとりがあった。
 委員：あなたは起草委員会に、市場の実務に応じた、もしくはそれに従った起草を行うよう指示していた、と私は考える。
 ルウェリン：私にそのような考えはなかった。市場の実務が規制を必要とする場合、市場実務を規制することであると思う。これは私の意見である。市場実務が適切である場合に、それに従うことと考える。法は商業を捨てない。
 委員：それは市場の妥当な実務のことをいうのか。
 ルウェリン：その通りである。
 See National Conf. Com m'rs on Uniform State Laws, Forty-Ninth Ann. Conf. at 14 (1940).
- 10) See Whitman, *Commercial Law and the American Volk: A Note on Llewellyn's German Sources for the Uniform Commercial Code*, 97 YALE L. J. 156, 173 (1988).
- 11) 法典とは、すべての法領域に関する先制的、系統的、そして包括的な制定法と定義される。つまり法典は、それが除外する以外の法すべてを置き換える点で、先制的である。法典は、一貫した術語によって整然と並べられたすべての部分が、それ自体の予定を示し、自らの方法を包含しつつ、結合し内容を連動させる点で、系統的である。そして法典は、その基本方針に従って執行されるように、すべてを含み、独立している点で、包括的である。See Hawkland, *Uniform Commercial "Code" Methodology*, 1962 U. ILL. L. F. 291-92 (1962)。この意味で、法典の代表的な事例は、ドイツとフランスの民法典である。統一商事法典の法典性をめぐる議論の詳細については、拙稿・法典としての統一商事法典、敬愛大学研究論集79号（平成23）41頁以下参照。
- 12) See Kamp, *Uptown Act: A History of the Uniform Commercial Code: 1940-49*, 51 SMU L. REV. 275, 279-80 (1998).
- 13) See K. Llewellyn, *The Uniform Commercial Code 3* (unpublished manuscript).
- 14) See Llewellyn, *On the Good, the True, the Beautiful, in Law*, 9 U. CHI. L. REV. 224, 263 (1941-1942).
- 15) K. Llewellyn, *Suggested Statement for a Foundation Project for a Uni-*

- form Commercial Code and Commentary (1943) (unpublished manuscript).
- 16) See Kamp, *supra* note 8, at 381.
- 17) See K. Llewellyn, About the New Commercial Code (1947) (unpublished manuscript).
- 18) Gilmore, *supra* note 3, at 1341.
- 19) 実際に売買法と流通証券法は、アメリカの状態に適合する状態になかった。指摘された通り、それらは25年か30年前に起草され、イギリス法の複製であった。See Dunham, *The New Commercial Code*, 55 COM. L. J. 197, 197 (1950).
- 20) See Mentschikoff, *The Uniform Commercial Code: An Experiment in Democracy in Drafting*, 36 A. B. A. 419, 419 (1950).
- 21) See *id.* at 420.
- 22) See Gilmore, *The Secured Transactions Article of the Commercial Code*, 16 LAW & CONTEMP. PROBS. 27, 48 (1951).
- 23) See Kamp, *Downtown Code: A History of the Uniform Commercial Code 1949-1954*, 49 BUFF. L. REV. 359, 361 (2001).
- 24) See Beutel, *The Proposed Uniform [?] Commercial Code Should Not Be Adopted*, 61 YALE L. J. 334, 334 (1952).
- 25) See Ireton, *The Commercial Code*, 22 MISS. L. J. 273, 281-82 (1951).
- 26) See K. Llewellyn, Saturday Morning Session, Enlarged Editorial Board 320-321 (1951) (unpublished manuscript).
- 27) 代表的批判は、この法典は社会立法に着手しており、社会立法の規制を安全の概念に関係する法律案に包含させることの妥当性にかなり疑問があるというものである。See Ireton, *The Proposed Commercial Code: A New Deal in Chattel Security*, 43 ILL. L. REV. 794, 804 (1949).
- 28) 銀行業者の条項、つまり第四編の歴史は、法典全体の歴史において血なまぐさい戦場になった。第四編が銀行びいきと非難されると、銀行業者の弁護士、とくにニューヨークのグループは、それをアメリカ銀行制度を破壊しようとする、共産主義者の陰謀と反撃した。See Rapson, *The Law of Modern Payment Systems and Notes by Fred H. Miller & Alvin C. Harrell*, 41 BUS. LAW. 675, 677 (1986).
- 29) See Kamp, *supra* note 8, at 384.
- 30) K. Llewellyn, Study of the Uniform Commercial Code/Statement to the Law Revision Commission: A Simple Case on Behalf of the Code 27 (August 16, 1954) (unpublished manuscript).
- 31) See *id.* at 29.
- 32) See K. Llewellyn, This Cut Rate American Culture 1 (1927) (unpublished manuscript).

- 33) See Whaley, *Foreword to Symposium, Origins and Evolution: Drafters Reflect Upon the Uniform Commercial Code*, 43 OHIO ST. L. J. 535 (1982).
起草の過程が熱意ある言葉で回想されている。
- 34) See Mentschikoff, *Reflections of a Drafter: Soia Mentschikoff*, 43 OHIO ST. L. J. 537, 543 (1982).
- 35) See Scott, *The Politics of Article 9*, 80 VA. L. REV. 1783, 1786 (1994).
- 36) See Connolly et. al., *Alcoholism and Angst in the Life and Work of Karl Llewellyn*, 24 OHIO N. U. L. REV. 43, 98 (1998).
- 37) See Patchel, *Interest Group Politics, Federalism, and the Uniform Laws Process: Some Lessons from the Uniform Commercial Code*, 78 MINN. L. REV. 83, 83 (1993).
- 38) See Coulson, *Uniform Law Process Symposium: Private Law Codes and The Uniform Commercial Code-Comments on History*, 27 OKLA. CITY U. L. REV. 615, 629 (2002).
- 39) 提案された世界商事法典は、かなり広い適用範囲について、統一商事法典と同じ方法をとるように主張される。See Bonell, *Do We Need a Global Commercial Code?* 106 DICK. L. REV. 87, 90 (2001).
- 40) 第九編の柔軟性と簡単な形式的手続が、その規定によって容易に適合する、新しい形態の担保付融資を可能にすべきものとする。See U.C.C. § 9-101 cmts. (2003).
- 41) See Wiseman, *The Limits of Vision: Karl Llewellyn and the Merchant Rules*, 100 HARV. L. R EV. 465, 468 (1987). ルウェリンは、統一商事法典第一編総則の主要な起草者でもあった。